

望月信亨 もちづきのぶ 佛教學者、文學博士。明治二年九月二十一日越前國今と郡國高村生れ、昭和二十二年七月十三日歿（八六—一九四）。舊姓松原、幼名勝次郎。號望無堂、櫻雨。明治二十八年淨土宗東京本校卒。在學中望月有成の養嗣子となる。比叡山の遊學、天台學を専攻。當時淨土宗の研究發表機關なきを以て、同志と月刊『宗粹』を創刊。二十二年淨土宗高等學院教授、二十八年京政を論じて免職となり、雜誌を廢刊して鷲尾順教等と日本宗敎協會を創設、機關誌『宗教界』を創刊した。翌年『法然上人全集』を編纂刊行、次で『佛敎大辭典』の編纂の著手、四十一年第一卷、翌年『佛敎大年表』刊行。四十四年辭典の第二卷刊、また淨土宗執綱を推された。翌年南條文雄を會長として佛書刊行會を組織し『大白土佛敎全書』全五十卷（大正十一年完成）を編輯出版。大正十二年京敎大學學長に就任、五年辭典第三卷刊、昭和五年大正大學學長に任じ、翌年辭典を添削改訂して新版第一卷を刊行（十一年索引・年表卷を加へて全七卷完成）。十二年岡山に佛敎文化研究所を開設、十九年淨土宗管長、知恩院門跡となる。

他に、校訂『本朝祖師傳記繪詞』（明治四十五年二月十五日筑後・善導寺）、『新略述淨土敎理史』（昭和十九年六月二十日創元社）等。